

大井直子先生のこと

Dr. Ooi

栗山 容子 KURIYAMA, Yoko

● 国際基督教大学
International Christian University

大井直子先生を知ることになりましたのは、大井先生が原一雄先生のもとで博士候補生として学ぶため、大学院後期課程に入学されてからのことです。本学を卒業されてから、お嬢さん二人を育て上げられた後、ご自身のキャリアを磨くために進学されました。ICU在学中に携わり、卒業論文のテーマであった価値観研究をご自身の関心から新たに発展させて、博士号を取得されました。このとき、審査委員の一人として関わって以来、長く教育、研究の両面で支えられてきました。特にここ数年は、COEの研究費による大学生の価値志向の共同研究者として、共に議論をするよき仲間としてかけがえのない存在となっています。

博士号取得後は心理学研究法の関連科目で後輩の指導に尽くされ、また非常勤講師として科目を担当されて、心理学プログラムの一端を担って来られました。さらに特任講師としてのこの3年間は心理学の主要科目を担当されながら、研究室の運営にも関わられて、研究室の元締的存在でした。その間、価値観研究のライフワークにおいても着実に成果をあげてこられたのは先述のとおりです。

心理学研究室の中で、大井先生は学生について一番の情報通です。学生指導において気がかりな学生があると、情報を求めて意見を伺うということなどがたびたびありましたし、それが的を射ていて、なるほどこういうことだったのかと後になって思うことがよくありました。それは、心理学専攻の学生は3学期、1年間にわたって大井先生の心理学研究法の指導を受けなければなら

ず、いわば心理学専攻のための洗礼を受ける、ということからきています。しかしそれも通り一遍の指導ではなく、一人一人をきめ細かく見ながら、各学生に合った指導を心がけていらっしゃるからこそできることではないかと思うのです。少しあと押しをした方がよい、とか、積極的な学生で、自分で自律的にできるから大丈夫、などとよく教えていただいたものです。

指導にあたっては、心理学研究の基礎的方法の指導はいうまでもなく、科学論文の書き方のノウハウが的確に指導され、また学生の提出するレポートには丁寧なフィードバックがたくさん書き込みでなされていました。研究法の実習では授業時間内ではカバーしきれない具体的な問題が多々生じてきますが、時間枠を超えて、これらの質問や対応に心を砕いて、遅くまで討議をしていらっしゃいました。厳しいなかにも温かさがあって、学生には頼れる先生だったと思います。また一方で、心理学の研究法や実習を伴う科目のサポートをする大学院生も大井先生を慕って研究室に集まっていたようです。時には研究のアドバイスを求め、時には一緒に飲みについて労をねぎらってもらうなど、良き先輩でもあったようです。

特任講師としての役割は終えることとなりますが、これからも研究法の授業や心理学のいくつかの科目を担当していただくことになっています。これまでのご奉仕に対して、ありがとうございますという感謝のことばとともに、これからもどうぞよろしく、と心から申し上げたいと思います。